

臨時実行委員会議事録

初版 2011. 1. 10

名称：臨時実行委員会

日時：2011年1月10日（月・祝） 13:00～17:00

場所：名城大学 名駅サテライトキャンパス

（〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-26-8 名古屋駅前SIAビル13階）

参加者：

金田 北原 畑 山田 吉本 吉楽 小田
運営 運営 北海道 東海 京滋奈 北信越 東北

前
ス
ク
リ
ー
ン

樋川 四国

高 静岡

西田 関西

野村 高橋 玉島 水川 広島 新井
運営 理事 兵庫 岡山 山野 関東

議題・議事内容：

1. 日本大会について（北原）

1.1 日本大会開催にかかる必要経費

2009年度 939万円 会場費込み（▲ジュニア参加費を含む）

2010年度 968万円 会場費なし（養生費必要）（▲ジュニア参加費を含む）

※実質的に経費が増えている

1.2 ジュニアジャパンの活動にかかる費用の見積もり

（ジュニアジャパン運営にかかる費用，日本大会運営を含む）

収入 平成22年度までは実績

案平成23年度 21,450,000円 JST1000万円は予定+参加費200万円は予

定+ α （自主的に集める必要あり）

案平成24年度 12,450,000円 参加費200万円は予定+ α

支出 案平成23年度

案平成24年度 40,750,000円

1.3 組織改編の方向性

(提案事項)

・円滑な運営のための事務局設立 ⇒ 組織改変地域別の補助金申請 … 弱体ノード・ブロックの事務支援

– ブロック大会，ノード大会の自主運営をスムーズにする

・フォローアップ

・検定 ⇒ 参加費ではなく検定料とする。

– 人材育成

– 入試等との連携（推薦入試，AO入試など）

(質問・意見)

*検定制とすると中味の議論が大事

→検定の方法（例 ピアノ，書道などの「級・段」制度などを参考に）

→審判のライセンス制度など

*検定制のビジネスモデルの難しさ

・登録料を基本にしたモデルがよいのでは…個人の活動履歴の記録・保証の問題と合わせて検討すべきではないか

・個人情報保護の問題もある

→成功事例もあるため検討の価値がある

→事務局機能は必要

*トップダウン的な組織を目指すのか

草の根的な活動を

→相互扶助の考え方を基本としたい

→基本的にはノード，ブロックの「支援」をするための組織の必要性

→+日本大会の開催はジュニアジャパン全体として必要なイベントという認識からこれをいかに開催すべきかがポイント

+ジュニアの価値を高めるためにどうあるべきかということが議論の趣旨

（そのために全体で統一すべきことが何かを明らかにする

*経費がかかっていることが前提となっている議論ではないか

類似規模のブロック／ノード大会と比べて日本大会の経費がかかり過ぎているか

そもそもいくらかの経費がかかるのかを洗い出しをしてから問題解決の方法を検討すべき

→現状の分析のために資料を提示

現状会場設営費が一番かかっている

→実際に費用がかかっている部分は大会経費以外

– フィールド保管料，メンテナンス料

- 送料, 郵送料

*ロボカップジュニアが何を狙っているのかについては, ブロック, ノードで違っている

(例) ブランドをもらえれば商品売るといいう形がつかれる

目的を共有できれば解決策を自主的に考えられる⇒「目的を共有したい」

→日本委員会としてはブランド維持が第一(商標, ロゴ)⇒その維持を強化する方向性はある

- 塾の名称を大会に出してよいかどうか(例 学校教育基本法 第1条項の組織のみ名前を出してよい)

→現時点では, 教育機関, 科学館, 塾などの主要な活動拠点の利害関係をバランスすることが必要

*ロボカップジュニアベースで経費を全て回収するのではなくロボカップ全体でペイするような方法はないのか

大人と子どもの活動の連携が見えづらい

ロボカップジュニアの活動

→メジャー(シニア)は持ち出しでやっている(到底全体で回収できない)

(日本大会自体は3000万~5000万円程度かかっている)

→ロボカップジュニアはロボカップへの参加も含めて社会教育・科学技術教育として裾野を広げることが目的

*フランチャイズ化などの可能性も検討できればよい

→塾等の参加方法についても再検討は可能

[確認事項]

《共通認識》

・2050年まで継続する, 社会的意義の高い活動である

・日本大会は必要

・各ノード/ブロックの活動を尊重

→支える事務局は必要

★ブランド維持 … 「社会的な位置づけ」を明確にしていくために必要
ノード/ブロックの支援(相互扶助)を進める

・運営費の安定的な確保 ⇒ 日本大会運営に1000万円

→年間2000万円程度の安定的な運営費を確保できればよいのではないか

⇒ノード/ブロックで100万程度確保できるための支援が必要

→そのために健全な会計, 特に支出の圧縮が必要

2. ジュニア運営の次期体制について(金田)

《運営委員会》

国内担当(運営委員長): 日本大会の運営, 指名権, 各ブロック/ノードの情報は空く

国内担当補佐（運営副委員長）：国内担当の補佐

国際担当：世界大会への登録補助。National Rep.（世界大会への日本代表，参加
枠数確保，会議出席）

《事務局》

事務局長：

（規約の改正が必要…以下は日本委員会の例を元に野村が例示）

- 決済権限（10万円以内）

（それ以上，50万円以内は運営委員長or運営委員会）

- 運営委員会への議題の提案権

会計担当

HP担当

メーリングリスト管理担当

選挙管理担当

パブリッシュ担当

合宿担当

大会チーム登録担当

新規ブロック／ノード相談担当

物品貸出担当

[決定事項]

・上の組織体制について

⇒体制の変更について承認を得た

⇒ジュニアの運営規約の改正案については運営員から提案し議論

⇒以上全体を5月の総会で承認し決定の予定

・運営委員の改選スケジュール

・立候補2月末

・投票3月

・承認5月

3. 日本大会のスケジュールについて

（提案事項）

平成23年 1月 臨時実行委員会

2月

3月 ブロック大会（4月頭まで）

4月

5月 大阪日本大会

6月 イスタンブール世界大会

7月中盤～後半 実行委員会 ⇒ 2012年3月日本大会について

8月
 9月
 10月
 11月
 平成24年 1月
 2月
 3月 日本大会 3月23日(金)準備, 3月24日(土), 25日
 (日)候補地あり
 4月
 6月 メキシコ世界大会

[決定事項]

- ・上の提案に対して
- ⇒スケジュールの決定事項
 - 平成23年7月中盤～後半 実行委員会 「2012年3月日本大会について」
 - 平成24年3月23日(金)準備, 3月24日(土), 25日(日) 日本大会(候補地あり)

4. 検定制度について, 審判のライセンス制度について

- ・カード発行を含む会員管理…年間3,000~5,000人規模 500円~700円/人 = 350万円程度の事務経費収入
- ・日本大会運営のための経費の確保方法
- ア) 会費(仮称)的な仕組み…薄く広く集める

検定費・会員登録費 ■■■■ … 会員全体に対するサービス(例 会員カード, 証明書発行, ノード参加権, 日本大会運営等)

ノード大会参加費 □□□

ブロック大会参加費 □□

日本大会参加費 ■

■⇒ジュニアジャパンの運営費=主に会員管理+日本大会運営費+事務局運営費

*関東ブロックの例…ブロック大会のノード持ち回り

*WROの例…組み込み技術にアピール⇒企業から協賛金

→ブランド力

- 数学オリンピック, 物理オリンピックはメジャーのターゲットがはっきりしている(ノーベル賞など)

- ロボット系の活動は複合, 総合的な活動なため特色を出しづらい

(スポンサー確保もリスクが高い)
→「検定」

イ) 協賛金 (スポンサー費) の獲得

ウ) 補助金の獲得

[確認事項]

- ・平成23年度については (平成24年3月の日本大会も含めて) の予算確保の目処は立っている (北原)
- ・平成24年3月の日本大会時の総会で平成25年度 (平成25年3月の日本大会運営を含む) の予算案を決める
 - ここを最終期限として、今後の予算の立て方、予算の確保方法を決定しなければいけない

[決定事項]

- ・ジュニアジャパン運営のための予算を確保する方法として
⇒「薄く広くジュニアジャパン運営のための費用を徴収する方法」を導入する
 - ただし、その費用の名称やそれに対するジュニアジャパン側のオブリゲーションの内容についてはノード/ブロックに持ち帰って議論
 - 前提としてこの費用の一部または全部の活動についてジャパンオープの運営費として念頭

5. 日本大会で使うフィールドの準備

- ・フィールドの製作費に関する検討が必要
(業者の検討案)

レスキューコートA	定価150,000円	5台単価	
サッカーB	日本大会の図面	2個	174,900円/台
		10個	97,900円/台

(参考)

カットシステム グレースケール2万枚

→日本大会運営費 (さらにはジュニアへの普及の観点では) フィールドの費用もバカにならない

フィールドを数年間使い回す事ができるとリーズナブル

⇒日本ルールを尊重することも大事な選択

今後技術委員会で検討してもらう必要がある

6. その他

- ・サッカーの国際ルール変更（吉本）
 - ・2011国際ルール
 - サッカーAもパルスボールを使う
 - 試合進行の停止にボールの故障を明記
 - Open League/Soccer Aはプライマリ／セカンダリ分割可能
 - Lightweight 1250g
 - ・日本大会でのルール提案…原則は2011国際ルールを採用+
 - Lightweight League 定常光（これから検討）
 - Open League パルス光（海外からのチームへの対応）
 - プライマリ／セカンダリの分け方は昨年と同じ
 - Lightweight League 重量制限 日本大会は1250gにする方向性（海外からのチームへの対応）

（これから検討）

⇒国際委員会技術委員での重量制限の削減議論の経緯について（野村）

- ・世界大会において競技中のロボットのファールが目立った
- ・世界大会ではボールの破損が非常に目立った
- ・以上から重量制限によってロボットのパワーをさらに下げる方向を検討

（LEGO以外の方法で製作しているチームからすると不満がでるのでは、という議論は技術委員会でも出た。

世界大会のLightweight参加チームの重量は1500gぎりぎり（重りを乗せるなども含めて）チームを除くと1000～1200g近辺。

リーズナブルな運営方法を考えると

- ・参加費の取り方の変更：ジュニア1名につき関係者1名無料をやめる。

メンター、関係者も1人1,000円徴収する（メンターはチーム単位でなく、人単位で徴収）

[決定事項]

⇒2011ジャパンオープンホームページの「参加費」項を修正する

http://www.robocup.or.jp/2011JP_OPEN_1/

==変更箇所==

ジュニア 4000円／人

ジュニアメンター・関係者（※会場でチームと同じ時間帯で入退場が可能） 有料
（金額およびメンターについてはチーム当たりか1人当たりかについても未定）

==

- ・参加チームのインタビューを導入して行きたい

- ダンスはすでに必須
- それ以外のチャレンジも世界大会ではインタビューがある

⇒今後議論を煮詰めて行く（ワーキンググループなどを作って検討する）

以上